

令和3年度(2021年度) みやっこ会議(西宮市地域自立支援協議会)報告会

日時 : 2022年6月7日(火)
14:00~16:00
西宮市職員会館3F

○プログラム

活動報告・計画 (各部会10分:質疑応答含む)

- | | |
|---------------|-----------------|
| ① 14:00~14:15 | しごと部会 |
| ② 14:15~14:30 | こども部会 |
| ③ 14:30~14:45 | みんなの部会 |
| ④ 14:45~15:00 | ほくぶ会 |
| ⑤ 15:00~15:15 | 地域生活移行連絡会 |
| ⑥ 15:15~15:30 | あんしん相談窓口連絡会 |
| ⑦ 15:30~15:45 | みやっこ会議の全体報告と方向性 |

【報告を受けて】

15:45~15:50 町田 竹之 (西宮市健康福祉局局长)

しごと部会 令和3年度活動報告書

<p>部会のテーマ 目的</p>	<p>「障害のある人・障害のない人の『働く』について」検討や意見交換を行い、障害のある人のニーズを中心とした地域課題を協議し課題改善に取り組み、それらの方策について検討することを目的とする。</p>
<p>協議内容</p>	<p>【西宮市内福祉事業所紹介動画の作成】 【市内福祉事業所ガイドブック2022版の作成】 【(研修会)就労機関を中心に、福祉サービスの機能説明】 【グループワークの実施】(分散、Zoom) 「本人を中心とした就労支援の取り組みや課題について」「生産収入について」「重度の働き方について」「就労(定着)支援について」「障がい者の高齢化等とそれに伴う働き方について」</p>
<p>取り組んだ 内容</p>	<p>・西宮市内福祉事業所紹介動画の作成 チラシにて広報を行い、YouTubeにて動画配信を行った。市内39事業所が参加、再生回数1061回と、例年市役所東館で開催してきた『福祉事業所合同説明会』の替わりとなるものが出来たと思われる。</p> <p>・市内福祉事業所ガイドブック2022版の作成 例年通り、ガイドブック2,000部を作成。2021版に関しては福祉関係以外にも、市内小中学校・大学(近隣校含む)・特別支援学校(近隣校含む)、医療機関、行政などへ配布し、計1903部配布することができた。</p> <p>・部会員へ自立支援協議会の説明 会長より「みやっこ会議」の説明、各部会、連絡会事務局より、昨年度の活動や現状を報告いただいた。各部会取り組み確認と、今後部会をこえて連携していきたい方向性を確認できた。</p> <p>・研修会の実施 ①『福祉センター2階の機能について』 「アイビー」「つむぎ」「生活福祉資金」「共生のまちづくり課(権利擁護)(福祉啓発係)(地域福祉課)」の役割を知る機会を設けることが出来た。 ②『ハローワークの現状を知る～多様な働き方について語り合しましょう～』 ハローワーク西宮 専門援助部門 統括職業指導官より、就労支援の現状とハローワークと福祉事業所のチーム支援について説明いただいた。その後、グループワークにて多様な働き方について協議し、短時間雇用や福祉サービスとの併用など、さまざまな課題を共有できた。 ③『一般就労への移行について考える』 兵庫県障害者職業センター主任カウンセラーより、職業センターの取り組みや役割などについて説明いただいた。</p> <p>・グループワークによる協議 ①『本人を中心とした就労支援の取り組みや課題について』 5グループに分かれ協議 学校と福祉との連携/コロナ禍における事業所での生産活動維持/学齢期の放デイや相談支援との連携のあり方/コロナ禍における就労支援のあり方 などの協議を進めることができた。 ②『生産収入について』 ジョブステーション西宮からの福祉的就労の現状/利用者同士の交流の場の必要性/コロナ禍における仕事の確保と維持 などの協議を進めることができた。 ③『重度の働き方について』 学齢期から成人期までの一貫した支援のあり方/重度の方の日中活動の現状/市内福祉サービス(進路先)の計画相談、放デイへの情報共有について/強度行動障害への対応/みやっこファイルの活用 などの協議を進めることができた。 ④『就労(定着)支援について』 短時間雇用のあり方/福祉サービスと雇用の併用/就労後の定着/実際の各事業所における就労事例の共有/家族と本人との思いの違いとアプローチ/ハローワークとの連携のあり方 などの協議を進めることができた。 ⑤『障がい者の高齢化等とそれに伴う働き方について』 企業において会社をリタイアした障がい者の現状/事業所での高齢化に伴う働き方の変化/介護保険との連携/最低賃金の特例/企業の障害者雇用率達成のための代行ビジネス/機能低下に対応する作業内容 などの協議を進めることができた。</p>
<p>達成できたこと・効果</p>	<p>・福祉事業所合同説明会がコロナ禍で開催できない中、動画配信で各事業所を紹介することができた。ご利用する側が、コロナ禍でも事業所の取組みを目で見てイメージするツールを作成できた。</p> <p>・改めて就労に関する各機関の役割を研修することで、事業所の持つ情報を標準化することができた。今まで連携の仕方が分からなかった事業所も、ハローワークや職業センターと関わるきっかけを作ることができた。</p> <p>・グループワークにて今話し合いたいテーマをピックアップし、協議することができた。</p>

残された課題	・「重度の働き方について」「就労(定着)支援について」「障がい者の高齢化等とそれに伴う働き方について」の3テーマにおける協議の継続
市への提言	・特になし

こども部会 令和3年度活動報告書

	こども部会(全体及びトピックス)
取り組んだ内容	<p>こども部会では協議の活性化のためテーマ別にグループ協議を行っている。 令和3年度は前年度から継続していた3つのグループ「こどもの居場所や地域連携」「みやっこネットワーク」「医療的ケアが必要なこどもへの支援」と、新たに「こどもの相談体制」グループを加えた4つのグループで協議を行った。各グループの協議内容は別紙の通りである。 またコロナ過で対面での会議が難しいことから、部会員全てを対象とした全体会を年3回(5月・9月・1月)開催している。全体会では、運営委員会の報告、他のグループの進捗状況を確認している。 定例の部会以外には以下の取り組みを行った。</p> <p>《児童フォーラム(みやっこ会議兼特別支援教育ネットワーク会議)》 【日時】 7月26日(月) 13:30~16:30 【場所】 オンライン開催 Webex 【参加者】 221名 / 一般:50名 教職員:171名 【内容】 講話 堀家 由妃代 先生(佛教大学 准教授) 「これからの共生社会をイメージして ~教育と地域で大切にしたいこと~」 パネルディスカッション パネリスト 堀家 由妃代(佛教大学 准教授) 山本 雅之(西宮市立安井小学校 校長) 泉 明子(一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会 副会長) 関本 幸司 (西宮市社会福祉協議会 西宮市障害者就労生活支援センター「アイビー」センター長)</p> <p>《あいサポーター養成講座への参加》 西宮市が推進する「西宮市あいサポート運動」の『あいサポーター養成講座』に参加した。</p> <p>《差別解消条例について》 9月の全体会にて、みやっこ会議で取り組んできた権利擁護委員会の説明を行う。今後は各部会で広報や啓発について検討することになっているが、西宮市に報告されている差別事例は少なく、本人が差別を受けていることに気づいていない、または事例としてあがっていないことが考えられるため、各グループで身近な事例の共有を行った。 ※令和元年、令和2年、西宮市に報告されている事例も共有する。</p>
達成できたこと・効果	<p>新型コロナウイルス感染症拡大後、部会の開催方法等を見直し、協議を止めることなく進めることができた。 令和2年度はコロナ過で止む負えず中止となった児童フォーラム(みやっこ会議兼特別支援教育ネットワーク会議)については、初めての試みとしてオンラインで開催することができた。子どもへの支援の質の向上には福祉と教育との連携は不可欠なものであり、今後も継続して実施する。 あいサポーター養成講座についても多くの部会員があいサポーターとなったが、今後も継続してサポーターを増やしていく。 差別解消への取り組みについては、各グループで身近な事例を共有し、運営委員会で報告することができた。 各グループの協議内容は別紙の通りである。</p>
残された課題	<p>各グループの協議内容は別紙の通りである。</p>
市への提言	<p>各グループの協議内容は別紙の通りである。</p>

こども部会 令和3年度活動報告書

グループ名	相談体制検討グループ
協議内容	西宮市内における子どもの相談支援体制について
取り組んだ内容	<p><現状の課題確認></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場（西宮市肢体不自由児者父母の会、鳴尾保育所/安井幼稚園園長、西宮児童通所支援連絡会、行政(生活支援課、子供家庭支援課、地域保健課)、こども未来センター、障害者総合相談支援センターにしのみや、西宮すなご医療福祉センター）から現状の確認を行う。 ・積極的に相談をしたいと考えている家族は、いずれかの機関と相談が出来るが、相談することに消極的な家族については、いずれの相談機関と繋がる事が出来ない。コロナ禍であるため、幼稚園や保育園で家族同士の繋がりを作ることも困難な状況にある。 ・子どもに関する相談は、子どもの障害や発達過程、家族の障害や養育能力等、多角的な視点で考える部分も多い。支援の必要性はあるが繋がりにくい家族は、支援者が本気で関わらないと繋がらないので、繋ぐ仕組みが大切である。 ・繋げる側（保育所等）と繋がる側（障害児相談支援事業所等）を繋ぐ仕組み作りが必要である。 <p><現在の相談機関の確認></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政だけでも、生活支援課、子供家庭支援課、地域保健課、健康増進課、育成センター、子育て総合センター、こども未来センター等がある。また、福祉では、障害児通所施設、障害児相談支援事業所等もある。学校には、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーも配置が進んでいる。 <p><相談支援機関と繋がりにくい理由の検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の相談機関が重層的に存在しているが、利用する立場（家族）からするとどこに相談をしたら良いか分からなくなっている。例え、相談が出来ても、違う機関を紹介されるだけで相談にのってくれないこともある。 ・周囲が心配をしても家族が相談を誰にもしない場合、どの相談機関とも繋がる事が難しい。このような場合は、保育園や幼稚園であれば、先生が家族に話を聞いたりすることで、相談機関と繋げる努力をしている。 <p><こども家庭総合支援拠点について確認></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年1月より、子供家庭支援課内に「こども家庭総合支援拠点（以下、拠点）」が設置された。拠点についての機能等について確認をする。
達成できたこと・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの相談体制の現状を確認することで、家族が抱えている課題（どこに相談をしたら良いか分からない・SOSをだすことが難しい家族の存在等）が明確となった。 ・重層的な相談支援体制の確認が出来たが、複数の相談支援の機関があり、また各機関の役割分担が明確でない部分もあり、家族が相談する際に混乱を招く結果に繋がっているが分かった。
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭総合支援拠点は、「すべての子どもを対象」としているため、家族からまず第1に相談できる窓口としての役割を担うことを期待できるが、まだ、その役割がはっきりとしていない。 ・障害のある子どもの相談については、成長段階に応じた切れ目のない支援を行うことを目指し、多岐に渡る相談窓口を作った結果、相談者は「結局どこに相談をしたらいいか分からない」という混乱を招いている。
市への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭総合支援拠点の広報・啓発を継続的に行うことや、市民の方が相談しやすい窓口体制を整えて頂きたい。 ・上述しているが、家族から「どこに相談をしたらいいか分からない」という話を聞く。その原因は、こども未来センター・保健福祉センター・基幹相談支援センターの機能や役割について、市として各センターの位置づけを明確に規定していないからではないかと思われる。そのため、各センターの評価を行い、今一度役割を明確にして頂くと共に市民への周知をしていただきたい。

こども部会 令和3年度活動報告書

グループ名	医療的ケア児グループ
協議内容	医療的ケアが必要な子どもが地域で暮らす上での現状と課題
取り組んだ内容	<p>昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりグループ毎に協議を進めている。医療的ケア児グループについては、コロナの感染状況を見ながら対面とオンラインで会議を行っている。</p> <p>《ガイドブックの配布と広報》 昨年度完成したガイドブックを、みやっこ会議の関係機関、西宮市在住の医療的ケア児が通っていると思われる近隣病院（兵庫医科大学病院、県立西宮病院、尼崎総合医療センター、県立こども病院、大阪市立総合医療センター、大阪母子医療センター）に配布し、西宮市在住の当事者家族へ配布を依頼した。 広報については、みやっこ会議のホームページからダウンロードできるようにした。また、「市政ニュース」への掲載を調整している。</p> <p>《リーフレットの作成》 ガイドブックを広く広報するツールとしてリーフレットを作成した。ガイドブックと併せてみやっこ会議の関係機関や近隣病院へ配布している。</p> <p>《アンケート調査の実施》 グループ会議にて、医療的ケア児支援法の施行（9月18日）による国と県の体制の確認、西宮市の現状を共有した。3年前に西宮市が医療的ケア児の状況を把握するためのアンケート調査を実施しているが、医療的ケア児を取り巻く環境は大きく変わっているため、再度状況把握のためのアンケートを作成している。</p> <p>《西宮市教育委員会との連携》 「西宮市立学校園における医療的ケア検討会」において、兵庫県教育委員会作成の「兵庫県医療的ケア実施体制ガイドライン」を基に西宮市版のガイドラインを作成することとなり、ガイドラインの項目にある「保護者の役割」について、医療的ケアに関わる機会の多いメンバーより意見を伺いたいと依頼がある。グループで集約した意見を報告し、今後の検討会の参考にされる。</p> <p>《行政との連携》 令和3年11月30日（火）障害福祉課小林課長・岡本氏にグループ会議への参加を依頼し、平成30年より開催されていた「医療的ケア児担当者会議・支援関係課長会議の流れ」の報告を受ける。その際、コロナ過で会議が中断していたが、令和4年1月25日に会議を再開すると説明がある。 会議の内容については、後日生活支援課に伺う。医療的ケア児支援法や各所属の取り組みの共有、特別支援教育課からは看護師確保の必要性についての報告があったとのこと。また、医療的ケア児の実数把握については難しい状況にあるが、事業対策を進める上では基盤が必要になることを確認していると聞いている。しかし、今回の会議の日程は決まっておらず、主として会議を進めていく課も明確にはなっていない。</p>
達成できたこと・効果	医療的ケア児やその家族に少しでも安心していただけるためのツール（ガイドブック・リーフレット）を作成し広報することができた。
残された課題	<p>《アンケート調査の実施》 医療的ケア児の状況を把握するためのアンケート調査を実施する。</p> <p>《行政との連携》 市役所内ではアンケートを実施した平成30年より「医療的ケア児担当者会議・支援関係課長会議」にて定期的な会議の場が設けられているが、アンケート結果を基にした課題検討は実施されておらず、医療的ケア児グループ内で自発的に行っている。また会議の発足から3年半経過しているが、今だ主として進めていく課は決定しておらず、次回開催も決まっていないことから議論は進んでいない。 医療的ケア児グループでは、当事者となる家族や子どもと直接関わる関係機関で現状と課題について協議を行っている。しかし、身近に関わるものとしての課題は多くあげられるが、根本的な課題解決には施策の検討や予算が必要不可欠であり、解決に向けた仕組み作りには限界がある。そのため、医療的ケア児に伴う課題解決に向けた話し合いが行われるよう「医療的ケア児担当者会議・支援関係課長会議」との連携を図ることが必要と思われる。</p>
市への提言	<p>「医療的ケア児担当者会議・支援関係課長会議」を主として進めていく課や担当者を早急に決定し、定期的にグループ会議に参加して頂くことで医療的ケア児の状況を把握し、市役所内の会議で課題解決に向けた検討が行われるよう連携を図っていきたい。 上記内容については、こども部会から令和元年より提言し続けているため、今回は今後の明確な方針をお伺いしたいと思います。</p>

こども部会 令和3年度活動報告書

グループ名	みやっこネットワークグループ
協議内容	みやっこファイルを活用した学校等との具体的な連携について
取り組んだ内容	<p>●「みやっこファイルグループ」から「みやっこネットワークグループ」へ <経緯> 昨年度まで、「みやっこファイルグループ」としてみやっこファイルの方向性について協議を行ってきた。その中で、みやっこファイルの継続的な運用に対して、入れ替わっていくメンバーがどこまで担えるのかという限界も見えてきた。 今後の展望として、市が予算の確保に努め、内容の更新や普及などについても必要に応じてこども部会に協力を求めながら主体的に取り組むという一定の方針がでたことにより、いったん協議を終えた。 その際グループを解散して他のグループに参加する選択肢もあったが、同じメンバーで次のテーマを選定して協議することになった。 次については、昨年度終盤に“共感”をキーワードに緊急時や普段の困りごとについて座談会を行ってはどうかという案が出ていたが、それを尊重しつつも新メンバーで考えることとした。当初タイムリーな話題であるコロナや災害時の緊急対応などがあがった。併せて、以前こども部会で出し合った『170項目の課題』について検証を行ったところ、「制度」のような大きなテーマや他のグループで協議中の課題を除くと「連携」についてはまだまだ協議の余地があり考えていくのが良いのではないかという方向となった。「地域連携グループ」は地域との幅広い連携をイメージしているので、身近な連携を取り扱うことにした。 以上の意見交換から、今後は具体的な学校園所との連携に絞り、みやっこファイルの活用や普及を念頭に協議していくことに決まり、グループ名を「みやっこネットワークグループ」とした。</p> <p>●現在の進捗状況 まず、みやっこファイルについて実態を知る必要があるためアンケートを実施することになり、作成に向け協議している。 現時点では、アンケートが出来上がり次第、みやっこ会議のメンバーを対象に実施する予定である。</p>
達成できたこと・効果	<p>R3年度についてはテーマの選定に時間を費やしたので、目に見える成果物があるわけではない。しかし障害の有無にかかわらず様々な立場のメンバーでコロナ禍における実情や課題、子育てをめぐる思いや保護者を孤立させないための方策など率直に意見交換して共有したことは有意義であった。 差別解消法に関する事例についても考えさせられた。 こうした協議を経て、メンバーが取り組める身近なテーマにたどり着いたことは意味深い。</p>
残された課題	<p>みやっこファイルに関するアンケートを実施して、実情を把握する。 その上で学校園所との連携について効果的な活用に向け検討する。</p>
市への提言	<p>今年度、市への提言は無しとする。</p>

こども部会 令和3年度活動報告書

グループ名	地域連携グループ
協議内容	<p>1. こどもの居場所の情報整理 2. インクルーシブをテーマにした人形劇(パネルシアター)の普及に向けた取り組みについて 3. 小学生の移動支援利用について</p>
取り組んだ内容	<p>令和3年度は、コロナの影響が引き続きあったものの、対面とオンラインを利用したハイブリッド形式を利用し、定例会開催を行った。協議内容は、昨年度に引き続いて、「こどもの居場所の情報整理」・「小学生の移動支援利用」を中心に行っている。</p> <p>《1. こどもの居場所の情報整理》 「こどもの放課後や長期休暇中に過ごせる居場所のちらし」(以下、居場所のちらし)の再編について検討を行った。今回の再編は、居場所のちらしに掲載されている情報の更新を行うことのみが目的ではなく、どのように地域へ根付かせていくかを念頭に置き、居場所のちらしを再編する必要があることをグループ内で共有した。情報収集については、地域情報と事業関係の情報整理の2点にし、地域情報に関しては西宮市社協の地区担当や生活支援Co.より情報を得る機会を作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域情報(地域の特性や居場所の情報等)や、障害のあるこどもの環境・課題について聞き取り →市医療介護連携圏域(中央圏域、鳴尾圏域、瓦木圏域、甲東・甲陽園圏域、北部圏域)の5圏域中、今年度は北部圏域を除いた4圏域について聞き取りを行い、グループ内で共有した。 ・事業関係の情報整理について →居場所のちらしに掲載されていた、児童館、子供の居場所づくり事業(放課後キッズ)、留守家庭児童育成センター、スポーツクラブ21等の事業について、聞き取りを行うことを想定している。今年度は児童館、放課後キッズについて聞き取りを行い、児童館についてグループ内で共有した。 <p>今年度、4つの圏域から聞き取りを行うことで、地域の情報や活動団体等について知る機会を得ることができた。現状、全ての活動団体と1つ1つ繋がりを作っていくことは困難であるため、こども食堂と共生型地域交流拠点について聞き取りを行っていく予定。また、北部圏域については、既に地域と連携した取り組みを行っているほくぶ会を通じて、情報収集をするための協議を行いたいこと、事業関係の聞き取りも順次行っていく予定である。</p> <p>《2. インクルーシブをテーマにした人形劇(パネルシアター)の普及に向けた取り組みについて》 パネルシアター「プレーメンの音楽隊」について、今年度は上映を行うことができなかった。 しかし、こども部会の取り組みとして、パネルシアターの活動を誰に伝えていきたいか、今後の活動の担い手作りをどうするか等、今一度検討をする必要がある。また、活動を行う中でこどもが安心して集える居場所作りや、地域へ根付かせる取り組みを考える必要があることから、こどもの居場所の情報整理と連動して行っていく必要があることを共有している。</p> <p>《3. 小学生の移動支援利用について》 指定特定相談支援事業所に対し、移動支援の利用にかかる相談に関するアンケートの実施を検討していたが、利用に至らなかった相談ケースの把握が困難であることが分かり、アンケートは実施しない結論となっている。実情把握については、居場所の調査の活動を通じてニーズを確認したり、主に児童の計画相談を立てている指定特定相談支援事業所への聞き取りを行う等の案があり、次年度に検討を行う予定。 また、移動支援の対象者拡大については、令和4年3月に行われた市議会定例会の中でも議員より質問があり、西宮市として今後検討予定であることが答弁されたため、その動向を注視することになった。</p>
達成できたこと・効果	<p>こどもの居場所の情報整理については、今後の活動の方向性の確認と地域や事業関係の聞き取りを始めることができた。</p>
残された課題	<p>こどもの居場所の情報収集</p>
市への提言	<p>今年度、市への提言はなしとする</p>

令和3年度みんなの部会年間活動報告書

部会のテーマ	西宮の自立支援協議会の中心的存在として、各部会を牽引できる程の影響力に期待し、当事者を中心とした部会となっている。去年度に続き、部会員の意見を参考に当事者の二ードを提示していく。また、みんなの部会においても様々な企画ものを実施する。
協議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 次年度の振り返りと今年度の予定の確認は毎年の作業 2 介護保険に移行する65歳問題についての勉強会 3 協議会のホームページの活用 4 あいサポート事業を部会として実施することについて 5 東京パラリンピックについて意見交換 6 市民祭りのPR動画にみんなの部会が作成した動画を提供 7 メインストリーム協会から報告事項 8 福祉ポスターコンテスト審査員の引き受けについて 9 オンライン会員募集について
取組んだ内容	<p>延べ参加人数 191名</p> <p><今年度は前年度と同様新型コロナウイルスの感染予防の為、障害があるメンバーのリスクを考慮し、緊急事態宣言や感染者数拡大などの状況に合わせながら、定例会実施を見送り、またはオンラインでの開催となった></p> <p>○昨年度より、定例会ごとに1～2名ずつ、メンバーの「自己紹介」の時間を設けている一人5～10分くらいで障害のことや経歴のことなど自由に話してもらっている。他の障害の人の状況や思いが分かってよかったなど感想をいただいている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ対策のことがあり、状況によって定例会を中止にしたり、オンラインにするなどで実施した。3年度の振り返りと次年度の企画をメンバーで考えるのは例年通り 2. 障害サービスを使っている私が65歳を超えて介護保険利用になったらどうなるのか不安という提案から勉強会を開いた。 瓦木在宅療養相談支援センターの松平康子さんに講義をしていただいた。 3. みやっこ会議のホームページのリニューアルに合わせてみんなの部会の紹介をどのようにするか意見交換をした。 4. あいサポート事業の説明をおこない、みんなの部会主催で開くことになった。3年度中に開催する予定であったが、コロナ感染対策のため、4年度に持ち越しとなった。 5. 東京パラリンピックが開催され、日本選手の活躍も多くあった。スポーツという視点だけでなく、ユニバーサルの見地から気づくことがあるかなど意見交換をした。 6. 市民まつりがコロナウイルス対策のために例年通りに開催できないためにオンラインを主とした開催になった。その中でみやっこ会議のPRをするにあたり、各会を代表し紹介をすることになった。 茂上部会長が所属のメインストリーム協会に依頼し、動画を作成していただいた。 西宮市ホームページ上の特設サイトでの紹介があった。 7. メインストリーム協会からの報告 筋ジストロフィーの障害があつて家族と住んでいたが、種々のサービスを駆使して一人暮らしをしている。 地域で社会参加することに喜びを感じる。家族とずっと暮らしている重度障害者や施設入所を長くしている人に一人暮らしでも二人暮らしでも良いが、地域生活を

	<p>することの当たり前を広めていきたい。</p> <p>8. みんなの部会の会員が市障害福祉課より福祉ポスターコンクールの審査員をしてみてもどうかと言う提案をいただき、会としてもしてみたいということでこの秋に実施予定になっている。</p> <p>点数を絞った作品に対して投票制で決めていく案が出ている。</p> <p>9. 現時点でみんなの部会の定例会に参加していただいている会員が平均35名程度である。市内で生活している障害がある人の数を思うと、障害者の意見ですと言うために相当数の意見を聞いていきたい。</p> <p>障害があることや生活環境が理由で総合福祉センターに来れない方もたくさんおられると思うと、コロナウィルス対策でZOOM等のリモート参加が普及しているのでこれを活用しオンライン会員の募集を4年度から始める。</p> <p>今までの定例会の幾つかをオンラインミーティングに位置づけたくさんの人数での実施を試みる。</p>
<p>達成できたこと</p>	<p>1. 毎回グループでの意見交換の時間を設けており、さまざまな意見等の集約の機会になっている。</p> <p>「介護保険への移行問題」や「非常時の生活支援について」「パラリンピック」「障害者差別解消法」「防災について」時流に沿って「SDG's」などの内容について話し合った。</p> <p>2. 介護保険に移行することについて（65歳問題）</p> <p>重度訪問介護サービスを利用して生活している障害者が介護保険対象者になることで従来のサービス量を確保できない、利用料の1割負担が必須になることなど不安な材料が幾つかある。</p> <p>話し合うことで想像で不安になっていることを少しでも正確な情報によって解消する機会とした。</p> <p>勉強会を実施したが一度で理解しにくいこともあり、また、ではどのような対策を講じることができるのかまでは議論できていないので、この勉強会は継続する。</p> <p>3. コロナウィルス対策が全てであったかのような1年であった。</p> <p>みんなの部会の本来のあり方として、食事会や団体での行動など楽しいイベントを通じて障害がある人たちのアドボカシーやエンパワメント、市民への啓発などをすべきでそれができる時期がきたら、どのように展開するかも、その都度話せた。</p>
<p>残された課題</p>	<p>1. みんなの部会ということで、障害がある人、その家族、支援者など垣根なく参加者を募っていきたい。</p> <p>さまざまな分野での思いがあるので、参加メンバーで共有していくことは難しくもある。</p> <p>話し合いの場として機能するようになってきたが、成果物を残すということは、なかなかできずにいるので、今後、具体的数値目標を設定しながらの議論を進めたい。</p> <p>参加者の所属する法人からでも団体からでも、普段関わりのないNPO法人などどのようなところからでも構わないが「持ち込み企画」という言い方で歓迎をするこんなことをやりたいと言うイベントや研修があればみんなの部会で積極的に取り入れて実行する考えでいる。</p>

	<p>2. 4年度の後半から次年度にかけて実施したい事項</p> <p>① グループホームの制度が変更になるとのことで、どう変わって、どう活用できるのかを学び、検討する。</p> <p>② 医療的ケアが必要な児者についての勉強会などをしてほしい。</p> <p>③ SDG 'sについて勉強会も持続可能なものとして継続する。</p> <p>④ ピアカウンセリングについて学ぶ場がほしいということなので、模擬研修が実施できればおこなう。</p> <p>⑤ 手話の基本的なことから学ぶ機会があればということなので講座を開催する。</p> <p>⑥ 意思決定支援についての研修会を実施する。</p> <p>⑦ ボッチャなどのスポーツを通して、または文化的なことを通して会員間の交流や地域の人たちとの交流も図りたい。</p> <p>⑧ あいサポート研修を執行できていないので、開催する。</p> <p>その他、福祉ポスターの審査員も実施予定。</p>
<p>市への提言</p>	<p>今年度は具体的にまとめていません。</p> <p>しかし、活動の中で介護保険と障害サービスの移行についての議論は継続している。</p> <p>また、災害時における困りごとについても昨年からの議論はしているので、行政側も課題になっているという理解を持っていただいて、積極的な対応策を考えていただければありがたい。</p>
<p>来年度に向けて</p>	<p>1 全体の進め方について</p> <p>今年度同様、会員から出てきた課題について前半は話題提供をおこない、後半はグループワークで議論していく。</p> <p>4年度にオンライン会員を募って、メンバー数を増やす予定でいる。多くの人の意見を聞きながらみんなの部会での成果物をつくる意識を持って活動する。</p> <p>他の部会・連絡会と協働できたり、牽引できる部会のあり方を目指す。</p> <p>2 次年度の協議内容の候補について</p> <p>上記「残された課題」の欄に記入</p>

以上

ほくぶ会 令和3年度活動報告書

部会のテーマ・目的	年齢や障がい、地区に関わらず北部地域で困っていることや課題の解決に向けた話し合いを行い、障がいのある人も含めた住民全体が住みやすい街づくりを目的として活動している。
協議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 障がいのある人の移動・交通の課題とその取り組み 2 北部地域相談窓口紹介動画の作成 3 教育機関との連携 4 ほくぶネットワーク会議の実施 5 イベントを通じた地域交流の企画 6 ほくぶ会フォーラムの実施
取り組んだ内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 障がいのある人の移動・交通の課題とその取り組み 西宮北部地域障がいのある人の移動・交通に関する困りごと事例集を作成し、チラシとともに関係各所へ配布・広報を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 西宮市交通政策課に、名塩・山口地区のコミュニティバス運行協議会や、交通に関係する企業に対して、あいサポート運動を活用した研修企画の広報をして頂くことができた。 ・ 宮っ子地域版の編集担当(名塩・東山台、山口・北六甲台、生瀬)と繋がり、事例集紹介の記事を掲載することができた。 ・ 東山台地区社協の理事会で、みやっこ会議の説明と事例集の広報を行った。また、来年度に向けて他の地区社協への参加を調整することができた。 2 北部地域相談窓口紹介動画の作成 コロナ禍でオンラインの活用が有効となった為、これまで相談窓口繋がっていなかった方が繋がるきっかけとして、気軽に見ることのできる相談窓口(総合相談北部窓口、生活支援課、アイビー、保健福祉センター)の紹介動画を作成し、みやっこ会議のホームページから視聴できるようにした。 3 教育機関との連携 福祉学習の授業を通して、生瀬小学校 3 年生に「たけしくんがラーメンをすきになったわけ」の紙芝居を用いた障がいの理解・啓発の取り組みを行った。 4 ほくぶネットワーク会議の実施 昨年度は開催できなかった北部地域の相談支援ネットワーク会議を、対面とオンラインを活用したハイブリット形式で再開している。ほくぶ会班長や事務局員、地域包括支援センターや保健福祉センター、子育てコンシェルジュ、社会福祉協議会の地域福祉課、共生のまちづくり課、障害者就労生活支援センターアイビー、北部在宅療養相談支援センター、生活支援課、障害者総合相談支援センターにのみや北部窓口といった相談機関が参加し、コロナ禍とアフターコロナの支援体制について情報交換を行い、連携を深めることができた。今回は業務の都合により参加は叶わなかったが、くらし相談センターつむぎ、PAS ネット(権利擁護支援ネットワーク)、障害福祉課とも連携を調整している。 5 イベントを通じた地域交流の企画 オンラインを活用したぼっちゃ大会を企画したが、コロナ感染拡大により開催には至らなかった。 6 ほくぶ会フォーラムの実施 ほくぶ会フォーラムをオンラインで開催し、みやっこ会議会員の他、上山口東自治会長や東山台地区社協福祉協力員、西宮市北部地域事業所、地域住民など 43 名の参加があった。完成した事例集の報告や来年度の活動の展開、社協からは北部地域の実践紹介と今後の取り組みについて報告・広報をすることができた。
達成できたこと・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年に引き続き、コロナ禍でもオンラインやみやっこ会議のホームページを活用して積極的にほくぶ会としての活動を展開することができた。 ○ 移動・交通の事例集を作成し、障がいのある人の困りごとを言語化することができた。事例集の広報活動やほくぶ会フォーラムを通じて、交通政策課や地区社協の理事会、宮っ子の編集担当者と連携し、地域とより深く繋がるきっかけを作ることができた。
残された課題	ほくぶ会フォーラムでは自治会長から、「ほくぶ会というものを知らなかった。もっと広報をして、自治会とも連携してもらいたい。」と意見があった。従来通りほくぶ会の活動を積極的に展開するとともに移動・交通の協議を進める中で地域との関りを増やし、広報や連携の体制を作る必要がある。
市への提言 (交通政策課)	令和4年1月25日(火)の話し合い以降、企業から研修に対する返答や反応があれば教えて頂き、あいサポーター養成講座を活用した研修の企画について一緒に検討したい。 (都市交通計画に掲げる基本目標 4-I、重点◎地域主体で地域の課題解決に向けた取組を進める仕組みづくりや、5-Ⅲ、○の 3 番目にあたる交通弱者への理解の醸成を進める為の取り組みについては、みやっこ会議としても協力できることがあると考えています。)

令和3年度地域生活移行連絡会 年間活動報告書

<p>会の テーマ</p>	<p>今年度も引き続き、コロナ禍で不安定な社会情勢の中でも、地域からの情報提供（グループホームの空き情報や取り組みの体験談を聞く等）や地域移行時のサポーターであるあんしん相談窓口連絡会との連携、さらに自立支援協議会の他部会との連携を強化していく。また、様々な業種や関係者をメンバー又はゲストに迎え、時には勉強会も行いながら、ご本人が望む地域での生活を支えや地域移行の後押しをする足がかりをみつけていく会にしていく。</p>
<p>協議内容</p>	
<p>取り組んだ内容</p>	<p>【定例会/イベント等】※（ ）は、参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月26日（水）定例会 会員自己紹介、地域移行の取り組みを総合相談、輪っふるの取り組みを聞いた。（16名） ・令和3年7月28日（水）定例会 すまいづくり推進課にきていただき、西宮市民間賃貸住宅すみかえサポート相談窓口について聞いた。 グループホームのオンライン見学会の実施をした。（20名） ・令和3年9月22日（水）定例会 グループホームの現状と今後について、LMT 北野さん、SKホーム野田さん、チアホーム尾崎さんに来ていただいて、お話を聞いた。（15人） ・令和3年11月24日（水）定例会 グループホームの座談会を実施。（株）Lit、ビーンズ、カノアホーム、SKホーム、LMT から管理者が参加され、グループホームの空き状況や現状を聞いた。グループホームの横のつながりづくりが必要であるということを確認した。（37名） ・令和4年1月26日（水）定例会 座談会の振り返りと、差別事例を出し合った。重度の障がいがある方のグループホームについてそれぞれ考える。何をもちって重度なのか、何があれば住めるのか等。（11名） ・令和4年3月23日（水）定例会 今年度の振り返りと次年度の計画について検討（9名） <p>【事務局会議】 毎月偶数月、第4水曜日 ※対面とリモートの混合で実施した。</p>
<p>達成できたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「住まい」についての話のなかで今年度はグループホームのことがメインになった。グループホームの現状についても知ることができ、重度の障がいがある人のグループホームの課題も共有することができた。
<p>残された課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に続き、他部会との協働を目標にしていくが、相手となる部会等のニーズとタイミングを見定めて進める必要がある。 ・グループホーム連絡会等、グループホームの横のつながりを作る機会を作る。
<p>市への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所施設・精神科病院等からの地域移行が進みにくい現状があり、西宮市全体で「地域移行の課題」をアセスメントする必要性を感じているが、参加者が限られている連絡会だけでは限度がある。そのため、例えば、障害支援区分調査や受給者証の更新等のタイミングでご本人の希望や状況の確認を第三者がする仕組み作りを検討していただきたい。そこから抽出した課題の解決に向けて連絡会の中で議論・検討したい。
<p>来年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行についての知って欲しい、知りたい情報を発信。 ・会員の増員（特に障がい分野以外、学生等） ・あんしん相談窓口連絡会とのコラボの定例化。 ・グループホーム連絡会の開催

以上

【目 的】

コロナ禍で不安定な社会情勢の中でも、地域からの情報提供（グループホームについての情報や地域移行の体験談など）や制度についての情報、また地域移行時のサポーターでもあるあんしん相談窓口連絡会との連携、さらに自立支援協議会の他部会との連携にて地域生活移行についての理解を深めていく。また様々な業種、職種や関係者をメンバー又はゲストに迎え、時には勉強会も交えながら、ご本人たちが望む地域での生活の支えや地域移行の後押しをする足がかりをみつけていく会としていく。

開催予定	内 容
4月25日	第1回事務局会議
5月23日	第1回定例会 新メンバー紹介、連絡会について、地域移行における差別解消法（事例）について…など
6月27日	第2回事務局会議
7月25日	第2回定例会（オープン部会を予定） 支援者が障害特性について理解し、正しい支援ができるようになるための勉強会
8月29日	第3回事務局会議
9月26日	第3回定例会 ”地域移行体験”についての事例発表 ほか
10月24日	第4回事務局会議
11月28日	第4回定例会 第3回までの事例や勉強会についてなどの振りかえり、課題抽出など
12月26日	第5回事務局会議
1月23日	第5回定例会 グループホーム関係者の方、相談員、ヘルパー事業所などとのコラボ企画
2月27日	第6回事務局会議
3月27日	第6回定例会 今年度の振りかえり、施策提言まとめ

※ その他、他事業所見学会も予定しています。

※ 新型コロナウイルス感染予防対策にて中止、またはオンラインや内容変更になる場合があります。その際には速やかにお知らせ致しますが、予めご了承下さい。

【開催会場・日時等】

- * 基本、会場は西宮市総合福祉センター内 時間13：30～約1時間半から2時間程度
- * 原則開催は事務局（偶数月）・本会（奇数月）ともに第4月曜日の午後開催。

あんしん相談窓口連絡会 令和3年度 年間活動報告書

<p>部会の テーマ・目的</p>	<p>①他部会、連絡会との繋がりづくり ②障害福祉サービスの不足状況について調査を実施し、具体的な根拠を持って市へ提言する。 ③相談支援専門員の質の向上と相談支援専門員が孤立しない仕組みづくり ④他機関との連携強化 ⑤研修の実施</p>
<p>取り組んだ 内容</p>	<p>①他部会、連絡会との繋がりづくり 地域生活移行連絡会のオープン部会(11月開催)に事務局メンバーが参加。グループホームの現状・課題について共有。 ②～④はワーキンググループに分かれ隔月で協議した。各グループの報告書に記載。 ⑤研修の実施 相談員の関心の高い議題について、講師を招き、講義いただいた。6月、西宮市社会福祉協議会の清水氏より「本人中心支援について」(参加者46名)。8月、全国手をつなぐ育成会又村氏より「権利擁護・虐待防止について」(オープン部会、参加者52名)。12月、あいサポーター養成講座を開催(参加者39名)。2月、スキルアップグループ主催で自己覚知についての研修を実施(参加者29名)。</p>
<p>達成できた事 や効果</p>	<p>①地域移行連絡会とのコラボ企画は新型コロナウイルス感染拡大により実施できず。地域生活移行連絡会のオープン部会に事務局メンバーが参加し、グループホームの支援状況について共有できた。 ②～④各ワーキンググループの報告書に記載 ⑤研修の実施 ・「本人中心支援」について改めて共有することにより、相談員として初心に立ち帰り、本人の意思決定支援についても深く考える機会となった。 ・8月定例会にて、虐待防止・権利擁護における基礎や対応のポイントを学び、9月定例会の中で、西宮市内の虐待防止対応の現状を共有した。そのうえで、日々の支援の中で虐待や権利擁護侵害ではないかと感じていることについての共有と、課題について検討し、8月の研修内容を深めた。 ・あいサポーター養成講座では、障害者差別や配慮について、障害への理解について学んだ。 ・2月のコンピテンシー開発研修では、「自分の仕事を理解し、行動するために」をテーマとし、自分自身を知ること、今後の相談業務や法人の一職員としての自分を考える機会と</p>
<p>残された課題</p>	<p>・事例検討など相談員同士で意見交換をする ・課題解決に向けてのグループ協議の継続 ・他部会、連絡会との連携</p>
<p>市への提言</p>	<p>なし</p>
<p>来年度に向けて</p>	<p>令和3年度のワーキングでの協議を継続し、積み残された課題協議に取り組む。他部会・連絡会との連携強化を図る。</p>

あんしん相談窓口連絡会 令和3年度 活動報告書

ワーキンググループ名	スキルアップ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員同士の繋がり作り ・相談員全体のスキル向上につながる仕組みづくり
取り組んだ内容	<p>1. 経緯 西宮市における相談支援専門員は、「ベテラン」「中堅」「フレッシュな相談員」の三層構造となっていることや一人事業所も増えていることから、気軽に相談できずに個々のケースについて一人で悩みを抱え込んでいる相談員も多い。また、新型コロナウイルス感染症の影響により対面で協議を重ねることが難しい現状や慢性的な相談支援専門員の不足から相談員は時間に追われ、自分自身の仕事について話し、認め合い、意見交換できるような時間を持ちにくい現状にある。</p> <p>上記の課題を解消するためには各事業所の横のつながりを強化し、あんしん相談窓口連絡会の中で日々の悩みの共有や情報交換を気軽に行いながら互いにスキルアップするための仕組み作りが必要であることから、「スキルアップグループ」として協議することとなる。</p> <p>2. 方法 事例の共有や相談員としての悩みを出し合うことで「本人中心支援とは何か、相談支援とは何か」ということを再確認する。また、相談から出てきた悩みや資源情報について共有することで相談支援専門員のスキルアップと西宮市におけるより良い相談支援体制の再構築を目的に「気軽に話せる学びの場」としての基盤づくりを行う。</p>
達成できた事や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の意識/スキル向上を目的とした研修企画を実施した。 ・グループ内で、日々の業務についての相談や、相談を通じての課題の共有を行った。 ・相談員に必要なスキルについて情報交換を行い必要なものの確認を行った。 ・相談支援事業所同士、横の繋がりを再確認する機会となった。
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「気軽に話せる学びの場」としての相談員同士の横の繋がり作り、研修企画の実施について検討。 ・グループのみならず、どのように全体化していくのかという協議の継続。 ・より相談員の学びや質の向上に繋げていけるための取り組み(事例検討やロールプレイなど)についての検討。
市への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の所はなし
来年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・残された課題について継続して取り組んでいく。 ・新型コロナウイルス感染症の状況に合わせた形での協議を行っていく。

あんしん相談窓口連絡会 令和3年度 活動報告書

ワーキンググループ名	他機関との連携
目的	前年度に引き続き、相談支援において、他事業所や他分野との連携は必要不可欠である。それらを「知る」「つながる」ことが相談員の資質向上、さらにはご本人への支援の充実に結びつくと考え、他機関との連携強化のため必要な策を講じる。
取り組んだ内容	<p>1.課題 前年度からの取り組みを継続。 他機関の現状を把握し、連携強化を図る。</p> <p>2.目標 前年度までの協議では、ヘルパー事業所間の横のつながり、また相談支援とのつながりを作っていくために、交流会・事例検討会の開催を目指していた。 今年度は、的を絞り、介護保険分野のヘルパー事業所に障害分野へ参入してもらうことを目標においた。 その方法として、障害特性や制度について知ってもらう交流会や事例検討会の開催が提案され、どのような交流会、事例検討会であれば継続性があり、より有意義なものになり、より多くの参加が望め、その先に社会資源が増え、サービスの質の向上に繋げていけるかを、考える中で、介護保険分野からの意見を聞き参考にしていくこととなった。 まずは、介護保険分野のこのことを知ることを今年度の目標とした。</p> <p>3.方法 ・5月7月10月1月3月にあんしん相談窓口連絡会のなかで、グループワークを実施。 ・連絡会と別に事務局メンバーが、在宅療養相談支援センターの松平さんと意見交換をする場を持った。 ・その中で、ヘルパーの人材不足は介護保険分野でも課題であることが分かった。また、介護保険分野でもケアマネージャーとヘルパー事業所の連携の必要性があり、有志で話をする場を作るなどの取り組みが行われていることを知った。</p>
達成できた事や効果	<p>■障害分野でヘルパー事業所の不足が課題となっていたが、高齢分野でも同じくヘルパーの人材不足が課題となっている現状を把握できた。</p> <p>■障害分野と高齢分野での連携を強めていくために、ケアマネージャー主催で行っている中央サポートネットに参加し、互いにコミュニケーションを図ることができた。</p>
残された課題	<p>■今後、障害分野と高齢分野との連携をとっていくための具体策の検討。</p> <p>■行政とも連携することで、制度の変革などに繋げていくその具体策の検討。</p>
市への提言	
来年度に向けて	・事務局メンバーが中央サポートネットに参加するなど、次年度はケアマネージャーとの親交を深め、進めていくなかで、介護保険・障害共に人手不足と人材育成の課題について、一緒に取り組む事ができないか検討していきたい。

あんしん相談窓口連絡会 令和3年度 活動報告書

ワーキンググループ名	制度について（障害福祉サービス不足量の視覚化）
目的	これまでの議論を通して障害福祉サービスの量（支給時間数やサービス提供事業所数等）がある事は明らかであるが、具体的な量や数的根拠の把握はできていない。調査をすることで具体的な不足量を明確にして、今後の具体的な議論や提言をしていくための根拠を探る。
取り組んだ内容	<p>1. 経緯 これまで相談支援を通じて相談員1人ひとりが個別のニーズを把握してきた。協議を進めていく中で、社会資源の不足やマンパワーの不足等のため、ニーズはあるが利用できていないサービスがあることが確認できた。（移動支援や生活介護、グループホーム等）今後の議論を進めていくため、また提言へと繋げていくために、何がどの程度不足しているのかを視覚化することとした。</p> <p>2. 目的 障害福祉サービスの不足量について具体的な量や数的根拠の把握を行う</p> <p>3. 方法 指定特定相談支援事業所より目的対象者ケースをアンケート形式で抽出する</p> <p>4. アンケートをした結果をどのように活用するのか ①市に情報として提供 ②市内事業所のネットワークづくり等、今後の連絡会でできることを探っていく</p> <p>アンケート（別紙参照）</p>
達成できた事や効果	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの相談員が不足と感じているサービスや内容を共有することができた。障害種別や年代によって、不足しているサービスの違いがあることを確認できた。 アンケートの内容について協議と修正を重ね、必要事項を盛り込むことができた。 アンケートを実施することができた。相談員26名、233件のデータを集めることができた。
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果の分析。 アンケート結果を元に議論を展開していく。
市への提言	次年度根拠を元に提案をしていくので現在はない。
来年度に向けて	アンケート結果を整理。障害福祉サービスの支給決定やサービス提供事業所、それぞれの不足に対する解決策を探っていく。

西宮市内にある指定特定相談支援事業所の皆様

「障害福祉サービスの不足量の視覚化」に向けたアンケート協力依頼

いつもみやっこ会議にご尽力いただきありがとうございます。

2021年度あんしん相談窓口連絡会のなかで「制度に関する事」について協議を行うグループが発足しました。みやっこ会議発足からこれまでの議論を通し障害福祉サービスの量（支給時間数やサービス提供事業所数等）が不足している事は明らかですが、具体的な量や数的根拠の把握ができていないのが現状です。

そのため、アンケート調査を実施することで具体的な不足量を明確にし、市へ提言をしていくための根拠を探りたいと考えました。このアンケート結果をもとに、市への提言に加え、市内の社会資源の情報を相談員で共有するためのネットワークづくりにも繋げていきたいと考えております。

膨大な内容の調査となり、ご多忙のなか負担も大きいことと存じますが、西宮市の障害福祉サービスの更なる充実に向け、相談員が一丸となつての数的根拠づくりに協力いただきますようお願いいたします。

【目的】

障害福祉サービスの不足量について具体的な量や数的根拠の把握を行う

【内容】

指定特定相談支援事業所より目的対象者ケースをアンケート形式で抽出する

【回収締め切り】

3月18日（金）

【回収先】

障害者総合相談支援センターにしのみや（担当：宮永）

*メールアドレス：miyanaga-e@n-shakyo.jp

あんしん相談窓口連絡会

制度グループ

担当： 西宮市生活支援課 和泉（TEL 0798-37-1300）

ワークメイト西宮聖徳園 椎木

記入方法について

・アンケート項目（エクセル「サービス不足量の実態把握表」に記載をお願いします）

*量の把握をしたいので1事例ずつ記入をお願いします。

1. 対象者の性別を教えてください。

男性・女性・その他・回答しない

2. 対象者の年齢層を教えてください。

就学前・小学生・中学生・高校生・18～39歳・40～64歳・65歳以上

3. 障害種別を教えてください。（※障害が重複する場合、事案に直結する種別を選択してください）

児童身体（医ケア有無）・児童知的・児童精神・児童難病・児童重心（医ケア有無）・
成人身体（医ケア有無）・成人知的・成人精神・成人難病・成人重心（医ケア有無）

4. お住まいの圏域を教えてください。

（圏域については地域包括 町別担当表を参考に選んでください）

5. 不足しているサービス種別は何ですか？

身体介護・家事援助・通院等介助（身体介護有）・通院等介助（身体介護無）・重度訪問
介護・行動援護・同行援護・療養介護・生活介護・短期入所・施設入所支援・自立訓練
（機能訓練）・自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練・就労移行支援・就労継続支援 A
型・就労継続支援 B 型・就労定着支援・自立生活援助・共同生活援助・地域移行支援・
地域定着支援・移動支援（身体介護を伴う）・移動支援（身体介護を伴わない）・児童発
達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・その他

6. 不足している内容を教えてください。

支給決定の時間や日数の不足・対象サービス提供事業所不足（人材不足、障害特性による
ものも含む）

7. 5 または 6 の補足事項、具体的な内容を記載してください。

（詳細のケース内容ではなく簡潔にまとめてください。）

2021年度 みやっこ会議（西宮市地域自立支援協議会）活動報告

2021度も新型コロナウイルス感染拡大のため、地域自立支援協議会（以下みやっこ会議）に参画している事業所でも本人や家族、職員の感染により、事業所の閉鎖や利用日数の制限、ヘルパー派遣等が困難となるなど、障害のある方の日常生活に多大なる影響を及ぼした。

2020度はみやっこ会議でのネットワークを活かし、当事者、施設関係等の新型コロナウイルス感染時の支援提供の仕組みづくりに取り組んだ。しかし、2021度においては感染拡大が広範囲に及び、昨年度の仕組みを活かすことができなかった。

みやっこ会議の各会議開催については、オンラインや対面での工夫をしながら運営委員会、各部会・連絡会とも定例会、事務局会議とも継続して実施することができた。現在もオンラインでの実施が効果的な場合もあることから、今後の運営方法の一つとして継続的に実施していく予定である。

また情報提供のあり方も紙ベースやネット、動画を活用するなど変化がみられている。届けたい人に「わかりやすく」「より新しい」情報を届けていく工夫も必要だと考えている。

新型コロナウイルス感染拡大への対応では、今後もみやっこ会議として情報収集をしながら、本人や家族の日常生活を守れる体制を検討していきたい。

みやっこ会議も立ち上げから15年経過し、参画団体も増え、各部会・連絡会で様々な協議が活発化している側面もあるが、障害分野以外の参画が少なく、地域の住民や各活動団体や他分野とのつながった活動やネットワーク化に至っていない。

また「本人のエンパワメント」からみえる課題でなく、「支援者の困り事」が課題となっている傾向もある。

西宮市の礎である「本人中心の理念」とは何かを確認し、そして共有していくことが求められている。そして「誰もが地域で暮らし続けられる体制づくり」「誰も排除されない地域づくり」を様々な人たちとおこなっていくことが、みやっこ会議や西宮市で活動する我々の使命である。

今後は障害のある人の地域生活について、地域の住民や各活動団体や他分野とつながり、他分野や地域の課題にも視野を広げながら、様々な視点をもって協議をしていきたい。

（運営体制）

運営委員会：奇数月（第1木曜日10時～12時）

会長・副会長・部会長・副部会長・連絡会代表・西宮市生活支援課・障害福祉課
健康増進課・こども未来センター・アイビー
障害者総合相談支援センター各部会・連絡会事務局

運営委員会事務局：偶数月（第1木曜日10時～12時）

会長・副会長・課長（生活支援課・障害福祉課）・係長（生活支援課・障害福祉課）
障害者総合相談支援センターにのみや事務局（運営）

運営委員会：6回 運営事務局会議：6回 総会：5月

相談支援体制のありかた検討 3 回（事務局：6回）

居住支援勉強会への参加 2回

1. 地域生活拠点支援等整備にむけた協議（詳細は別紙①）

第1期、第2期地域生活拠点支援等整備検討委員会を通じて「①相談」「②緊急時の受け入れ・対応」について協議を開始した。昨年度は主に「②緊急時」について協議し、緊急時における制度外支援について提言し令和4年度より施策化に至った。

昨年度の第2期検討委員会で積み残された「①相談」について、今年度より西宮市が「相談支援体制整備に関する協議体」を設置し、みやっこ会議の運営委員会事務局、あんしん相談窓口連絡会が西宮市と協働しながら相談支援体制の協議をすすめてきた。

相談支援体制についての方向性については、今後、その内容に応じて西宮市が主体となり協議を進めていくのか、みやっこ会議の検討委員会や各部会や連絡会で進めていくのか整理をし、西宮市における相談支援体制の整備をおこなっていききたい。

また相談支援体制の整備にあたっては、地域福祉計画で掲げられている包括的相談支援体制とも連動しながら協議をしていく必要もあると考えている。

2. 障害者差別の事例の集約

各部会・連絡会にて障害者差別について意見交換をしてもらい、事例についても集約をおこなった。改めて意見交換することで本人や家族、支援者から出された事例の多さからすると、障害者差別に関する相談が表面化されておらず、本人や家族も「あきらめている」「当たり前になって差別に気づいてない」「解消するための方法がわからない」など課題が多くあると感じた。

今年度は事例の集約のみであったが、①障害者差別の相談窓口の機能、②解消にむけて西宮市と協働した仕組みづくり（プロセスのマニュアル化）③あっせん機能 ④啓発 についてなど、差別解消地域支援協議会とその事務局とも協力しながらすすめていく必要がある。

3. 地域とのつながり

これまで、みやっこ会議では地域とのつながりを目的とした全体フォーラムやイベントを開催してきた。一方で、その場限りでのつながりとなってしまう継続したつながりを持つことができずにいた。

そのため、2021年度当初、みやっこ会議の各部会・連絡会では、地域とのつながりも視野に入れた活動を行い、地域とのつながりを継続していくためにも、各部会・連絡会の年間を通じての実践について、フォーラム等を通じて報告する方針を打ち立てた。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、目に見えた地域とのつながりの活動は、多くの部会・連絡会では実践できずに、ほくぶ会やこども部会のみといった以前から実践を行う部会にとどまった。

みやっこ会議としての動きとして、全体フォーラムの代替として2021年下期より安井地域の住民組織（青愛協・地区社協・自治会）、企業（ネットヨタ、コープこうべ、尼崎信用金庫）、社会福祉協議会が協働し、実行委員形式をとり、実施に向けて様々な視点を交え、役割分担を行いながら企画、立案しており、2022年度の実施に向けた準備を行っている。

4. ホームページのリニューアル

2021年11月29日にホームページをリニューアルした。情報をみやすく、わかりやすく発信できるように工夫をし、部会等で作成した資料や発行物についてもダウンロードできるよう全て掲載した。今後、ホームページを活用しながら様々な情報発信を行っていきたい。

5. 市民祭り

コロナウィルス感染拡大に伴い、市民祭りがオンライン開催となった。みやっこ会議でも何か動画でアピールできないかと、みんなの部会の部会長とメインストリーム協会の協力を得て、障害のある方の生活を紹介する動画を作成、配信した。様々な人に障害のある人の地域生活を知ってもらうことを目的とした。これからもみやっこ会議についての動画作成や情報発信についても考えていきたい。

2022年度 みやっこ会議（西宮市地域自立支援協議会）活動計画

1. 本人中心の理念に基づいた部会・連絡会活動の実施

すべての人が共に当たり前に暮らせる社会の実現に向けた取り組みには、その人らしく、人間らしく共に価値を高め合うことが必要である。それは、ご本人の力を高めるだけでなく、共にいる我々の価値をも高めることとなる。

みやっこ会議そのものも、共に価値を高め合う1つのコミュニティーであること認識し活動実践を行っていく。

2. 地域生活拠点支援等整備にむけた協議

相談支援体制についての論議は、途中経過となっている。引き続き西宮市の要請に協力し、実効性のある体制整備に向けた論議に主体的に参画していく予定である。

3. あいサポート運動への参画

あいサポート運動については、各部会でのサポーター養成講座を開催した。今後も引き続きあいサポーター養成講座を部会内で実施するとともに、講座を担うメッセンジャーの養成も必要である。協議会としては当初よりあいサポート運動への協力を行うこととしており、メッセンジャーの養成についても協力を行う。

4. 地域とのつながり

各部会・連絡会での地域とのつながりを基本とした活動は2021年度同様実施する。一方で、みやっこ会議として実践する安井地域との交流についても、1つのイベントとして終わらせるのではなく、今後、安井地域で続く地域活動に参加し、共に暮らしを考える場につながるよう基盤づくりとして地域住民組織や企業とも継続したかかわりを模索していく。